神戸新聞 2025年02月11日 火曜日 面名 姫路 １３ 23ページ

清元秀泰市長（左端）にデータを活用して地域課題を解決する手法を発表する姫路西高の生徒ら＝姫路市役所

統計、データ分析 地域課題の解決策提案

地域通貨導入など 市長に姫路西高生

姫路西高校（姫路市北八代2）の2年生が、同市の清元秀泰市長らに施策を提言する「市長と語ろう！地域の課題」が市役所であった。データ分析の結果などに基づき、観光や防災などの課題を探究した4班がアイデアを披露した。

同校は、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受け、統計やデータ解析などを活用した探究活動に力を入れる。4班は地域課題を探究のテーマに選び、4日に市幹部らへ発表した。

播磨灘のイカナゴの減少を研究した班は、漁獲量と森林面積に相関関係があるとし、「森林が増えれば漁獲量も増える。太陽光発電設備を規制するなど保全策が必要」と指摘した。

地域経済の活性化をテーマにした班は独自の地域通貨の導入を提言。防災を取り上げた班は地形分析などを基に、豪雨災害は高齢化が進む山間部で起こりやすいと結論付けた。

三木悠紀恵さん、岸万桜（まお）さん、田中美有さんの3人は色覚障害者でも見えやすい観光マップの導入を提案。「赤や緑が茶色にしか見えない人もいるので、配慮が必要」と訴えた。

清元市長は「大変参考になる指摘ばかり。観光マップはどのような色にすべきかも教えてほしい」と呼びかけた。市観光経済局の大前晋局長も「マップ作成の際、書いてある情報が正しいかどうかだけを気にしていなかった。次から気を付けたい」と話した。

（井上 駿）

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。